

田中城(別名上寺城、上の城)(指定無)(高島市安曇川町田中)

〔名称〕田中城跡は、滋賀県高島郡安曇川町大字田中にあり、上寺 集落の裏山に所在することから、地元の伝承として古くから「上寺城」「上ノ城」などと呼ばれていますが、歴史的には「田中城」と呼ぶのが、ふさわしいでしょう。地名の由来となった上寺は、比良山系に営まれた天台密教の山岳寺院「松蓋寺」が同じ裏山に建てられていたためです。松蓋寺は、室町時代頃には衰退し廃寺と化して、今は観音堂一字が残されているだけです。なお、「上ノ城」に対して、「下ノ城」という地名が大字田中のほぼ中央の平地にあり、その付近には「北堀」「東堀」「南堀」という小字名が残されています。これは鎌倉末期に田中氏が当地を支配するに際して築いた方形館の跡と推定されます。

〔立地〕田中城跡は、安曇川町の西方に広がる泰山寺台地から、舌状にのびた一支丘の先端部全体と、ふもとに接した上寺集落の一部をも含めて築城されました。城跡の標高は160～220メートルにあり、安曇川平野との比高はわずか60メートルで、比較的標高の低い山地に築かれた中世山城といえます。しかし、支丘は三方すべて急峻な地形を呈し、泰山寺野につながる背後の尾根も非常に細く、防御するには最適だったのです。また、最も高い位置につくられた曲輪からは、安曇川町、高島町の平野と琵琶湖が一望できます。城跡の規模は、東西約320メートル、南北190メートルをはかります。

〔歴史〕田中城がいつ築造されたかは、記録がなく定かではありません。元々そこには松蓋寺があり、それを田中氏が移転させて築城したのか、あるいは廃寺となった跡地を利用して築城したのかは不明です。城主は、佐々木信綱の二男高信の分流で田中郷を支配した田中氏歴代です。たとえば『長興宿弥記』文明14年(1482)の条には「佐々木田中四郎兵衛貞信」が記されていますが、この人物もまた田中城主の一人だったと思われます。田中城が歴史に登場するのは、戦国末期、『信長公記』の元亀元年(1570)の条からです。その年の4月21日、織田信長の軍勢は越前の朝倉義景攻略のため、京都を出発し、湖西を北上して若狭から敦賀へ向かったのですが、その途次、信長は「田中の城」に逗留しています。この軍勢には、のちの豊臣秀吉や徳川家康も参加していました。元亀4年(1573)浅井長政の勢力下にあった田中城は、信長によって攻略され、その後は明智光秀の支配をうけて終焉をむかえます。

参考文献 『近江輿地志略』『高島郡誌』『日本城郭大系』『安曇川町史』その他

「筑後デジタルアーカイブ」による

